No.	14-5-1	場所	松川町生田福与	次世代への継承キーワード
名称	氾濫した寺沢川。植えたばかりの稲が水没			前兆現象
災害現象	洪水氾濫・農業被害			河川：寺沢川
補足事項				支流：

概要

松川町生田地区の斜面は、風化すると砂状になりやすい花崗岩からできている。降り続く雨により、いたるところで斜面が崩れ落ち、屋根筋の集落を残して被害は全域に広がった。間沢川、寺沢川、福沢川に流れ込んだ土砂は谷沿いの水田を呑み込み、大きな土石流となって、下流の福与地域をはじめ、天竜川沿いの集落に大きな打撃を与えた。

●体験談：災害当時、消防団十二分団の副分団長（松川町生田地区在住）

＜生田地区で６月27日＞連絡機能が全くなくなった午後四時頃から矢の如く降る雨の中、次々と山抜けが発生し沢を押してくる様は、まさに地獄としか思えない様相でした。**立ち木が少し揺れたと思うと地鳴りがして山抜け、**全く生きた心地がしない時が数時間続きました。夜、ローソクの明りで夕食を済ませた午後八時頃、大きな音、響き、天竜川が流れ込んで来たのかと思われる様な異常な音が寺沢川の上流から聞こえてきたので、あわてて外へ飛び出して見たところ、大蛇が首をもち上げて、一気に走り去る様に僅かな月明りで見えました。（中略）後で判りましたが、現在の生田グランド入口の暗渠が山津波で塞がれ、あの大雨の水が三時間余りも流れずに溜り満杯となり、築立した道路が切れて一気に流れ出した水だったのです。

（松川史学会誌 15「昭和 36 年梅雨前線豪雨災害 三六災害の思い出」p.21）

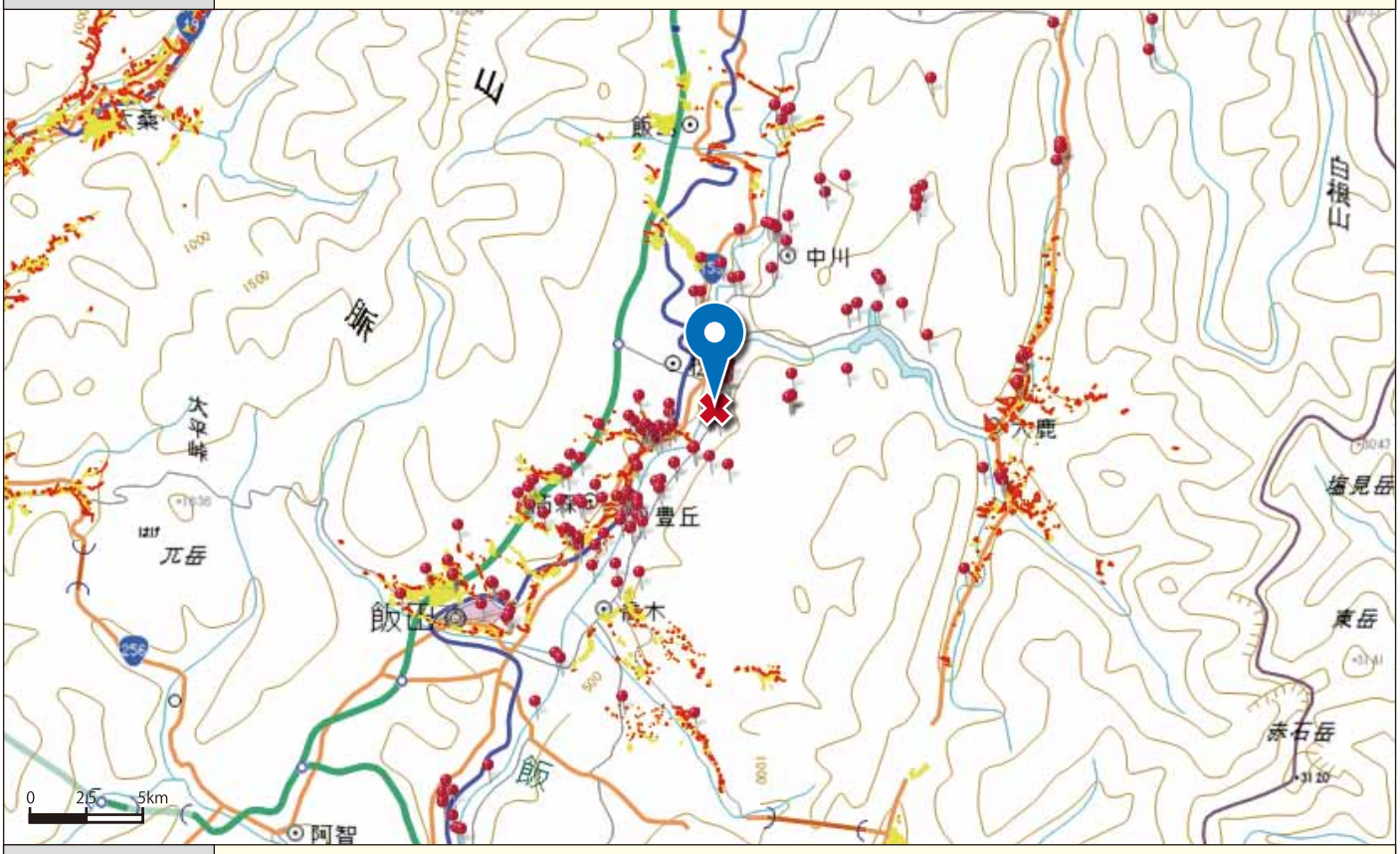
記録

間植えたばかりの水稲が水没。災害後、松川町消防団が山から赤土を運搬し、20a の水田を復旧した。
十数年、作付をしたが、現在は生田工業団地になっている。赤土の提供は各地からあり、東京の安井工務店が５t、６t ダンプで運搬した。

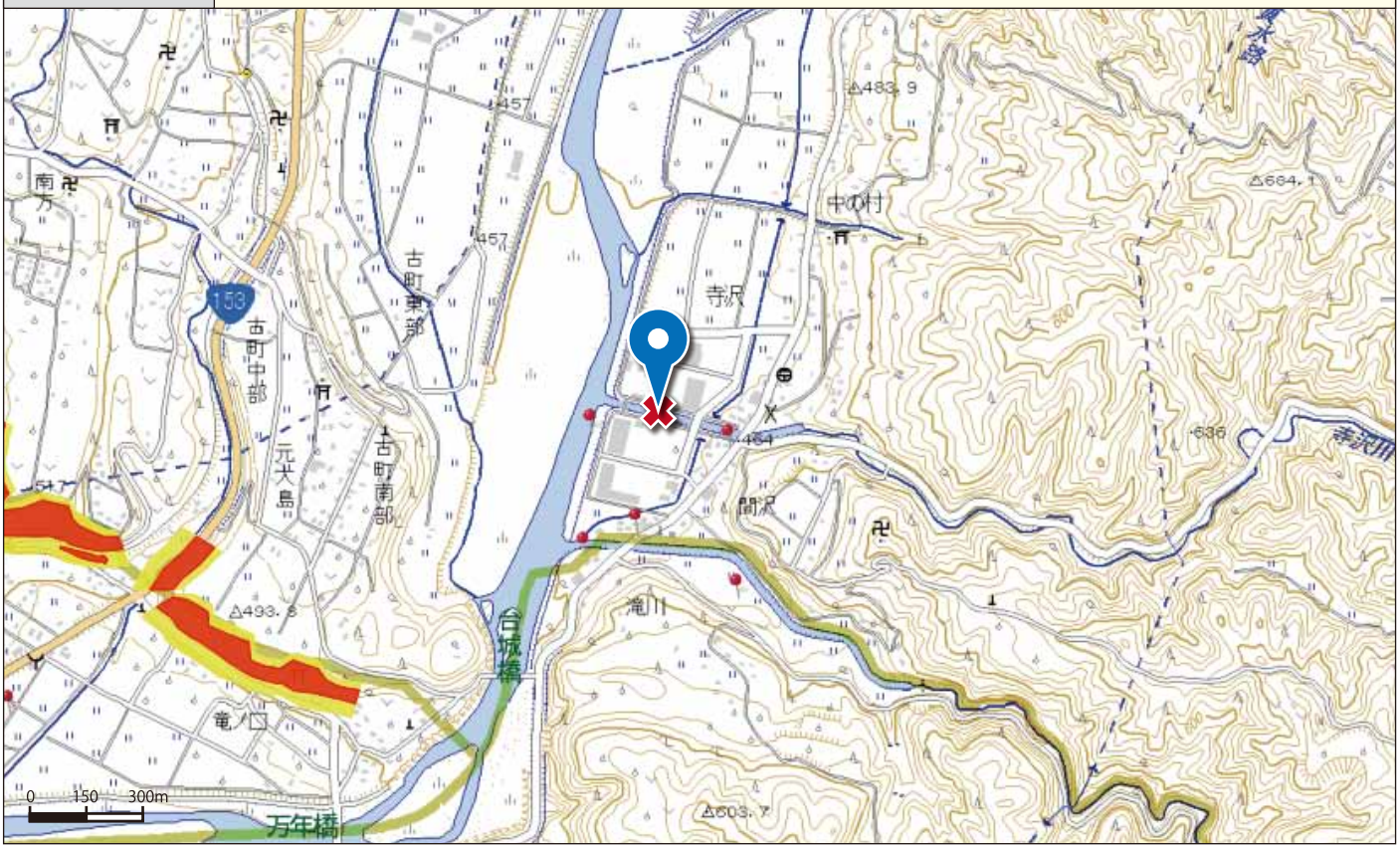
出典	「天竜川のあの頃」p.199/ 松川史学会誌 15「昭和 36 年梅雨前線豪雨災害 三六災害の思い出」p.21
備考	概要欄の＜　　＞は編者が補足説明したものです。

No.	14-5-1	場所	松川町生田福与	緯度	35.581011
名称	氾濫した寺沢川。植えたばかりの稲が水没			経度	137.922334

地図　広域図



地図　詳細図



備考	上記地図に表示されている、黄色の区域は「土砂災害警戒区域」（通称：イエローゾーン）といい、土砂災害のおそれがある区域を指します。また、赤色の区域は、「土砂災害特別警戒区域」（通用：レッドゾーン）といい、土砂災害警戒区域のうち、建築物に損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域を指します。